

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日 時：2017年11月16日（木）13：35～14：35

場 所：国立京都国際会館 1F Room 4（Room E）

出 席：社員（評議員）約140名、名誉会員5名（議決権無）、功労会員5名（議決権無）

委任状：50通

I. 開会, II. 理事長挨拶

開会に先立ち、名誉会員の阿部裕先生（大阪大学名誉教授 享年 96 歳：2017/4/27）、日野原重明先生（聖路加国際病院, 享年 105 歳:2017/7/18）、功労会員の鈴木洋司先生（元防衛医科大学校病院 享年 72 歳:2017/2/28）、荒井茂先生（元山形大学 享年 83 歳：2017/4/9）の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第 21 条により矢富裕理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり、社員数 239 名のところ社員出席者数と委任状数を合わせて半数を越えるため（190 名）当会での決議は成立することが報告され、議場より柴田綾子理事が議事録署名人に選任され、議事が進められた。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（東條尚子 庶務理事）

2017 年度各種委員会活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、報告された。

(1) 学術推進化委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：前川真人）

- 1) 平成 28・29 年度学術推進プロジェクト研究採択課題中間報告について
昨年採択した 4 課題の中間報告を受けた。
- 2) 平成 30 年度学術推進プロジェクト研究募集について
平成 30 年度より学術推進プロジェクトは以下の方針にすることを議決した。
 - ・隔年募集ではなく、毎年募集とする。
 - ・毎年 3 件以内を採択する。
 - ・研究費は一件 100 万円に統一する。
 - ・研究費は毎年分割で支給していたが、採択時に全額を一括で支給する。
 - ・研究期間は 2 年間でこれまで通り。
 - ・応募者の拡大を図るため、例年 12 月に公表していた募集要項を 10 月に公表する。
 - ・応募締め切りは 2 月末まででこれまで通り。

(2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：村上正巳）

- 1) 編集委員が交代した。
- 2) 編集委員の業務の確認を行った。
- 3) 本年度の優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。
- 4) 「臨床病理」掲載の図表の転載依頼の対応について確認した。
- 5) 国立研究開発法人科学技術振興機構からのデータベース収録について検討した。

(3) 教育委員会（委員長：本田孝行、担当理事：山田俊幸）

- 1) 第 28 回関東・甲信越支部総会および第 73 回支部例会開催前に同会場で教育委員会主催の RCPC を行った。

- 2) 第 64 回学術集集會にて下記の生涯教育を企画した。
 - a) RCPC2 症例
 - b) 臨床検査医学 catch up セミナー 3 演題
 - c) ワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査専門医がこれから考えていくべきこと～」(ワークライフバランス委員会と共同企画)

(4) 臨床検査点数委員会 (委員長: 古川泰司、担当理事: 東條尚子)

- 1) 委員会は、臨床検査専門医会・保険点数委員会と合同で、2016 年 11 月 22 日に開催され、また本総会中 (2017 年 11 月 17 日) に開催予定である。
- 2) 平成 30 年度診療報酬改定に向け、内保連第一次提案書の提出を行った (2016/12/9)。内容は、臨床検査振興協議会提案に合致させて本学会より 42 件となった。内保連医療技術評価提案書として提出期限日 (2017/3/31) に提出した。
- 3) 提案書作成後、厚労省担当技官とのヒアリングが、2017 年 7 月 21 日に行われた。

(5) 標準化委員会 (委員長: 菱沼 昭、担当理事: 前川真人)

- 1) IFCC 甲状腺機能検査標準化委員会のフェーズ IV スタディーが Clin Chem 誌に発表された。TSH:63(7):1248-1260 (2017)、FT4: 63(10):1642-1652 (2017)
- 2) 6 月にアテネで IFCC C-STFT (甲状腺機能検査標準化委員会) が開かれた。席上、2018 年に予定していた世界一斉標準化が困難な状況にあることが明らかになった。今後、日本独自に標準化を目指すことも必要になった。
- 3) 6 月の日本医学検査学会、10 月の日本甲状腺学会にて進捗状況を解説した。8 月に JCCLS 理事会、10 月に日本甲状腺学会理事会に出席し、甲状腺機能検査標準化の現状を説明した。
- 4) 9 月に企業メンバーと会合を開き、標準化は学会側が主導して行なうこととなった。
- 5) 11 月の WASPaLM および日本臨床検査医学会にて、進捗状況を解説する予定である。今後、厚労省に TSH のハーモナイゼーションを働きかけたい。

(6) 精度管理委員会 (委員長: 菊池春人、担当理事: 宮地勇人)

- 1) 外部精度管理調査活動として、2017 年度の CAP サーベイの課題整理と対応を行った (屈折法による尿比重、CBC、中性脂肪のピア評価など)。2018 年度のサーベイ参加募集にあたり、プログラム、新規導入項目について検討した。
- 2) CAP サーベイのアンケート実施について、結果のフィードバックを検討中である。
- 3) CAP サーベイ試料の輸送費値上げについて対応検討し、その一部を 2018 年度のサーベイ価格に上乗せすることとした。
- 4) 臨床検査室グローバルニュースは、委員会監修のもと年 4 回発刊を継続中。
- 5) 委員会内規案の整備について検討中。

(7) EBLM 委員会 (委員長: 片岡浩巳、担当理事: 小柴賢洋)

- 1) 2017 年 5 月に第 1 回 EBLM 委員会を開催し、第 64 回日本臨床検査医学会学術集集會でシンポジウムと EBLM 教育セミナーを実施することとした。
- 2) 教育セミナーでは、「統計の基礎からデータベース入門」をテーマに、受講者の要望が強かったデータベース技術の話題を追加した。
- 3) シンポジウム企画では「医療ビッグデータ解析時代を支える EBLM 研究の目指す方向性」をテーマに、今後の EBLM 領域の課題についてディスカッションを実施する計画とした。

(8) 倫理委員会（委員長：通山 薫、担当理事：諏訪部章）

- 1) 「臨床検査を終了した残存検体（既存試料）の業務、教育、研究のための使用」改訂案の策定：委員
会案を作成し、9月に理事会へ答申した。今後下記シンポジウムでの議論を経て、最終案策定予定。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会学術集会にて、医療倫理シンポジウム「検体の取扱いと研究倫理の最前
線」を開催予定。

(9) 利益相反委員会（委員長：佐藤尚武、担当理事：諏訪部章）

- 1) 演題登録時のCOI自己申告書を修正した。
- 2) 顧問弁護士と会計士のCOI自己申告書については提出を求めないことにした。
- 3) 日本医学会のCOI管理ガイドラインの2017年改定を受け、当会の指針、細則およびCOI申告書の見
直しを行う。

(10) ガイドライン作成委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

- 1) 今年度第一回委員会は、2017年5月13日に開催され、次版の内容確認、執筆担当者選定が行われた。
第二回委員会は臨時社員総会同日2017年11月16日に開催予定である。
- 2) 外部団体への対応として、i) 日本医学会COI管理ガイドラインの改定案への対応、ii) 厚労省難病
対策課から、指定難病の臨床個人調査票に記載する検査値の桁数についての相談、iii) 日本動脈硬
化学会の「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017」に対するパブリックコメントに関する対応、を
行った。

(11) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：谷直人）

- 1) 2017年度は1回の委員会を開催した。JLAC10の新規登録を、分析物コード8件、識別コード16件、
結果識別（固有）コード4件、実施した。
- 2) 一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）が厚生労働省から受託した「臨床検査マスタ
ー普及に向けた調査研究業務」に協力した。

(12) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：村上正巳、担当理事：東條尚子）

- 1) ISO 15189認定施設を対象としてアンケート調査を実施し、103施設から回答を得た。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会学術集会時に開催される全国検査部長・技師長会議においてアンケート
調査結果を報告する。

(13) 新専門医制度広報アドホック委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- 1) 日本臨床検査医学会ホームページ「臨床検査専門医を目指す方へ」に「受験資格と認定施設での研修
に関するQ&A」を掲載した。
- 2) 日本臨床検査医学会ホームページ上に臨床検査専門医取得に関するサポートセンターを開設し、2017
年10月までに12名からの問い合わせに回答した。
- 3) 日本臨床検査医学会ホームページ「臨床検査専門医を目指す方へ」の臨床検査専門医紹介コーナーに
4名の臨床検査専門医の声を掲載した（2017年9月）。現在、7名の専門医の声が掲載されている。
- 4) 臨床検査振興協議会による「厚労省霞ヶ関子ども見学デー」（2017年7月）での広報活動に参加・協力
した。

(14) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

本年6月のがんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書、10月のがんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針では、検査の分析的妥当性の記述がないため、厚労省ほかに対する提言書案（主文を示す）を作成した。

「ゲノム医療推進にとって臨床的妥当性と臨床的有用性のエビデンスは重要である。意味のあるエビデンスの大前提として、精確な検査結果を得るための遺伝子関連検査の分析的妥当性の確保に関して、医療関係者のみならず医療政策立案者、そして国民の関心と理解が必要である。」

(15) 国際委員会（委員長：石井潤一、担当理事：村上正巳）

- 1) 2017年度国際学会奨励賞受賞候補者に佐藤恵美氏、石垣知寛氏、千葉 満氏を推薦した。
- 2) LMCE2017 and KSLM (Oct 18-20, Seoul, Korea) における keynote speaker に野村文夫先生（千葉大学）を、one slot in regional symposium に山田俊幸先生（自治医科大学）を推薦した。

(16) 医療安全委員会（委員長：中谷 中、担当理事：小柴賢洋）

- 1) 2017年3月22日、「医療事故調査制度」協力学会説明会に中谷が出席した。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会学術集会において、2017年11月18日に感染制御（演者：森兼啓太先生、田辺正樹先生）と医療安全（演者：中島和恵先生）をテーマとして医療安全シンポジウム、11月19日に委員会を開催予定である。
- 3) 2017年11月24日、医療安全全国共同行動平成29年度第2回会員連絡会議および医療安全全国フォーラムに中谷が出席予定である。

(17) 会則改定委員会（委員長：東條尚子、担当理事：✕谷直人）

- 1) 日本専門医機構による「基本領域 臨床検査専門医」ならびに「日本専門医機構認定臨床検査領域基幹施設の統括責任者」が新たに認定されることから、これに合わせて細則における評議員候補者の要件の改定案を作成した。
- 2) パートタイマー就業規則を作成した。

(18) チーム医療委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：柴田綾子）

- 1) 第64回学術集会（京都）において、本委員会主催の「パニック値対応に関するシンポジウム」を企画した。全国の主な病院に対しパニック値に関する大規模アンケート調査を実施し、その結果を本シンポジウムで発表した。
- 2) 第64回学術集会にて第1回委員会を開催し、「在宅医療と臨床検査」について、この分野に造詣の深い専門委員を加え、本学会としての指針について議論した。
- 3) 本委員会の活動内容を学会HPで紹介した。

(19) 学術集会企画委員会（委員長：村田 満、担当理事：木村 聡）

- 1) 評議員に対してアンケートを行い、3年間連続して（シリーズとして）取り上げたいもの、単年度で取り上げたいものについて情報収集した。
- 2) アンケート集計に基づき委員間での意見交換の結果、教育講演、シンポジウム、専門医教育プログラム、領域別シンポジウム、他学会共催シンポジウム、日臨技との共催シンポジウム、本学会委員会企画等について、ある程度の絞り込みを行い、方針を共有した。今後は連続企画や単年度プログラムについて3名の学術集会長予定者が互いに連絡とりながら内容を選択してゆくこととした。

(20) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- 1) 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」（日本医師会 女性医師支援センター、2017年9月）に出席した。
- 2) 第64回学術集会でワークショップ「新専門医時代～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」（臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会 共催）を企画、実施する。

(21) 熊本地震対策委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：✕谷直人）

- 1) 2016年4月14日の地震発生により、当委員会を4月17日に発足し検査物資を中心に支援を行い、本年3月末に解散となった。
- 2) 本年4月30日に「熊本地震における臨床検査支援活動」を発行した。

(22) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

1月1日、7月1日付での新規申請施設および再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

(23) 受験・更新資格審査委員会（委員長：菊池春人）

本年度の臨床検査専門医・管理医の受験資格について審査を行った。

- 1) 専門医受験希望者28名について25を有資格と判定し、3名については疑義があったため保留とし、第1回臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- 2) 管理医受験希望者19名について全員を有資格と判定し、第2回臨床検査専門医・管理医審議会に報告予定である。

(24) 試験委員会（委員長：宮地勇人）

- 1) 日本専門医機構の整備指針に基づき、臨床検査専門医認定試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験のあり方の検討を行い、臨床検査専門医・管理医審議会での審議を踏まえ、試験の見直しを順次行っている。
- 2) 第34回試験（2017年度）について、出題基準・出題範囲の公示に基づき、筆記試験（記述問題、多肢選択問題）、実技試験について、試験委員会・実行委員会の合同会議による試験問題のブラッシュアップを行った。試験準備側の負担を減らしつつ、より客観的で合理的な実技出題の方法として、実技動画試験を順次拡大、2017年にバーチャルスライド試験を導入した。
- 3) 試験問題作成の運用内規を整備、試験合否通知の講評書式の見直しを行った。
- 4) 試験実施内容の評価と合否の最終判定を行った。
第34回臨床検査専門医認定試験実施
試験実行委員長：渡邊卓（杏林大学）
開催場所：杏林大学医学部基礎研究棟
実施日： 筆記試験 2017年8月5日
 実技試験 2017年8月6日
- 5) ゲノム医療の実用化に向けた遺伝子関連検査の精度の確保に取り組む医療法等の一部改正の公布に呼応し、染色体・遺伝子関連検査の位置付けを検討した。

2. 第65回学術集会報告（東京2018/11/15(木)～11/18(日)）（矢富 裕 理事長）

2018年11月15日（木）～11月18日（日）に、京王プラザホテル（東京都新宿区）で、村田満会長（慶應義塾大）のもと開催されることが報告され、村田会長から一言挨拶があった。

3. 第66回日本臨床検査医学会学術集会報告（岡山2019/11/21日(木)～11/24(日)）

2019年11月21日(木)～11月24日(日)に、岡山コンベンションセンター(岡山県)で、通山薫会長(川崎医大)のもと開催されることが報告され、通山会長から一言挨拶があった。

4. 理事・監事 選挙結果について(東條尚子 庶務担当理事)

理事・監事選挙の結果で2018・2019年度理事5名:1位 山田俊幸、2位 松尾収二、3位 古川泰司、3位 吉田博、5位 古田耕、2018・2019・2020・2021年度監事1名:福武勝幸の当選が報告された。また、2018・2019年度支部理事は、各支部から第3回理事会(12/23)までに推薦される予定であることが報告された。

5. 2018・2019年度臨床検査専門医及び管理医認定試験実行委員長について(矢富 裕 理事長)

2018・2019年度臨床検査専門医試験実行委員長を古川泰司 先生(帝京大学)に、2018・2019年度臨床検査管理医試験実行委員長を東田修二 先生(東京医科歯科大学)に依頼することが報告された。

6. 細則の一部改定 評議員候補者の資格要件について(東條尚子会則改定委員会委員長)

日本専門医機構「基本領域 臨床検査専門医」、臨床検査領域基幹施設の統括責任者が新たに認定されたため、整合性をとるため細則の評議員候補者の資格要件を改定したことが報告された。

7. 臨床検査管理医規定の一部改定について(矢富 裕 理事長)

臨床検査管理医の受験資格の会員歴は、現在は1年以上であるが、それを「受験時会員であること」と改定し入会した年に受験可能としたことが報告された。

8. 新専門医制度関連事項について(山田俊幸 副理事長, 専門医担当理事)

日本専門医機構専門研修プログラムの専攻医登録スケジュール、そして一次登録が開始されていること、本会としては、プログラム制に加えてカリキュラム制での登録も受け付けるが、その合計数が募集数と同程度となることが予想されることが報告された。また、過去の専門医試験合格者の研修開始届提出数が少なく、実態と乖離しているため、現制度で研修中の専攻医には研修開始届の提出を、来年度からのカリキュラム制研修開始予定者には専用の申請書の提出を徹底することが依頼された。

9. 熊本地震対策委員会の記録集について(矢富 裕 理事長)

2016年4月14日に発生した熊本地震への当会熊本地震対策委員会の支援活動を中心に記録した記録集を、2017年4月30日に発行し、各関係団体、機関に合計約1300部を無償配布したこと、また、当会ホームページに閲覧・印刷とも可能な状態で掲載したことが報告された。

10. 厚労省への医師国家試験における臨床検査関連の表記に関する要望書提出について(東條尚子 庶務理事)

2016年12月24日の理事会において、医師国家試験での臨床検査関連試験問題の検査項目名称や単位の表記に不適切なものがあり問題であるため厚労省へ要望書を提出することを決定したので、本件ならびに検査を専門とする医師(できれば臨床検査専門医)を医師国家試験委員の構成員とする要望書を、2017年3月13日に、山田俊幸副理事長から厚労省担当者へ手渡したことが報告された。

11. その他(矢富 裕 理事長)

特になし。

IV. 審議事項

1. [2017年度補正予算案・中間報告・2018年度予算案について](#)（諏訪部章 会計理事）

2017年度中間実績、2017年度補正予算案（特別会計、アジア交流基金）、2018年度予算案が提示された。

- ・2017年度中間実績は、1月1日～6月30日までの実績の金額での報告である。
- ・2017年度補正予算案は、特別会計の第29回 WASPaLM への補助金（100万円）、アジア交流基金の・ASCPaLM 会費、WASPALM での理事会等費用（30万円）である。
- ・2018年度予算案では、一般会計：e-leaning による収入（100万円）、臨床検査のガイドライン JSLM2018 作成のための特別会計からの補填収入（500万円）、第11回特別例会補助金（50万円）、臨床検査のガイドライン JSLM2018 作成費用（500万円）、学術推進プロジェクト助成金は委員会提案により金額の変更（250→300万円に）、特別会計：日本専門医機構への貸付金の返金（約150万円）、ガイドライン 2018 費用補填（500万円）

以上の主な変更、新規での計上について説明があり、審議のうえ承認された。

（後頁に掲載）

2. [2017年度事業中間報告について](#)（東條尚子 庶務理事）

2017年度事業中間報告があり、2017年度の会員数については3年未満の会費未納者も含む見込の人数の説明があったうえ、承認された。

（後頁に掲載）

3. [2018年度事業計画（案）について](#)（東條尚子 庶務理事）

2018年度事業計画（案）が提示され承認された。

（後頁に掲載）

4. 2018年度からの名誉会員・功勞会員・評議員（社員）の推薦について（矢富 裕 理事長）

- ・名誉会員として、理事会で推薦、承認された清島満先生が推薦され承認された。
- ・功勞会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記8名が推薦され、承認された。
関東・甲信越支部から鶴澤龍一先生、島津千里先生、藤田清貴先生、三橋知明先生、渡邊眞一郎先生、近畿支部から岩谷良則先生、小宮山豊先生、中国・四国支部から土井俊夫先生。
- ・評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された下記7名が提示され承認された。
北海道支部から高橋聡先生、東北支部から高橋伸一郎先生、関東・甲信越支部から町田哲男先生、東海・北陸支部から渡邊昌俊先生、中国・四国支部から三島清司先生、松村敬久先生、矢野彰三先生。

5. 評議員（社員）再任予定者（2018/01/01）について（矢富 裕 理事長）

2018年1月1日付評議員（社員）の再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員（社員）の再任には社員総会の承認が必要であるため、2018年1月1日付の評議員（社員）再任予定者38名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任された場合は退任となる場合もあることを前提としたうえで承認された。

6. 第30回日本医学会総会 2019 中部での第11回特別例会長について（矢富 裕 理事長）

2019年4月開催の第30回日本医学会総会に併せて開催する日本医学会分科会の第11回日本臨床検査医学会特別例会の特別例会長として、前川真人先生が推薦され承認された。

前川真人先生から一言挨拶があった。

7. その他（東條尚子 庶務担当理事）

2017年度に係る定時社員総会は、2018年3月24日（土）、学士会館で開催予定であることが報告された。

V. 閉会（山田俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2018年1月15日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 矢 富 裕

議事録署名人 柴田 綾子

2017年度 日本臨床検査医学会 総会日より

日 時：2017年11月17日（金）10：40～11：40

場 所：国立京都国際会館 1F Room 1（メインホール）

出席数：約150名

まず、矢富裕理事長より挨拶があった。

そして、第64回学術集会長の村上正巳会長が議長となって議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

その後、表彰式（臨床検査専門医認定証授与式、名誉会員・功労会員顕彰、学会賞・功労賞受賞式、国際学会奨励賞受賞式）が執り行われた。

山田俊幸副理事長より挨拶があり総会を閉会した。